

4. まとめ・表現

情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行うことにより、一人一人の生徒の考えが明らかになったり、課題が一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてくる。このことが学習として質的に高まることであり、深まりのある探究活動を実現することとなる。

まとめ・表現においては、次の点に配慮することが大切である。

情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚すること
 相手意識や目的意識を明確にすること
 伝えるための具体的な方法を身に付け、内容を明らかにすること
 各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用すること

< 具体的事例 >

事例 振り返りカードでまとめ・表現する

生徒の思考を深め、探究活動を連続・発展するためには、これまでの学習活動における情報を整理し、自分の考えを一層明らかにする振り返りカードを活用することが効果的です。

【実践例】これまでの活動を見つめる振り返りカード】

川の調査の発表会・交流

意見交流と新たな課題の生みだし

振り返りカード

単元名「川について考える」	1年
これまでの自分の学習活動を整理して書きましょう。	
小学校の時 川を探索して生き物などについて調べたが、今回は、さらに水質調査や市役所の人、NPOの人たちの話を聞いて様々な側面から調べ学習を行って、環境問題について考えることにした。	
水質調査では、予想したより川の水はきれいで、生き物が生	
友達の発表や話し合いから気付いたこと、思ったことを書きましょう。	
Cグループの発表を聞いて、これまで川の整備が進められてきた経緯がよく分かった。また、NPOの人たちの活動や思い、市役所の人たちの考えの違いがあるので、これからはその違いを少しでも近づけていくようにすることが大切だと思いました。	
「もっと知りたいこと」、「これからやってみたいこと」、「やらなければならないこと」などを書きましょう。	
私たちもできる範囲で川の近くの清掃ボランティアなどに取り組みたい。川にかかわっている市役所の人たちやNPOの人たちは、技術的にも素晴らしいし、自然や環境、市民のことをしっかり考えている人たちばかりでした。こんな人たちの話をもっと聞きたいと思いました。わたしは、将来何になるか分かりませんが、この人達のような「プロ」になれるようにがんばり	

【ポイント】

これまでの学習活動の整理

- ・これまでの学習活動などを文章で表現して整理することにより、自分の気付きや考えを一層明らかにできるようにする。

新たな情報の整理

- ・友達と交流し、発表内容から気付いたことなど、新たな情報を整理し、自己の考えと比較したり関連させたりできるようにする。

視点の明確化

- ・自分の活動の振り返りや友達との交流を通して、「もっと知りたいこと」「やってみたいこと」は何かなど、明確な視点をもって、自分の考えを整理できるようにする。



教科等関連

- ・各教科等においても、振り返りカードなどに言語化することで学習活動を振り返ることが考えられる。

事例 保護者や地域住民などに報告する

生徒のまとめや発表に対して、保護者や地域住民などによる外部評価の場を設定することで、自らのよい点や改善点に気づき、自信を深めたり、次の探究活動への意欲を高めたりします。

【実践例 保護者や地域住民を招いた発表会】

1 発表会に参加される保護者や地域住民に対して発表後の感想を述べていただくよう依頼する。

2 各グループの発表会を行う。

保護者や地域住民の感想

「目標をはっきりさせて、調べたりまとめたりしてきたことはすばらしい。他の勉強にも生かしてほしい。」
 「去年の発表より、内容が整理され、多角的に分析されていたし、発表者が自分の考えをもしっかりもっていたので分かりやすかった。」
 「来年の発表では、家の人や地域の人にやってほしいことなども提案してほしい。」

3 教師は保護者や地域住民の感想を整理し板書にまとめる。

【発表会後の生徒の感想】

Aさん：今日は、さんにほめてもらってうれしかった。努力した甲斐があった。これからも相手のことを考えて発表したい。
 Bさん：わかったことの発表だけでなく、この次は自分の考えをきちんと発表できるようにしたい。提案型の発表に挑戦したい。

【ポイント】

保護者等への事前の依頼

- ・生徒の自信を高めること、生徒に改善点や今後の方向性について示唆を与えることなどに関して、感想を述べてもらうよう、事前に保護者等に対し依頼する。

教師による整理、価値付け

- ・保護者や地域住民の感想を教師が補足したり、板書したりしながら整理し、生徒の活動を価値付ける。

保護者等のメッセージの活用

- ・感想を発表することができなかった保護者や地域住民には、メッセージカードなどを渡し、記述してもらうようお願いすることも考えられる。



教科等関連

- ・国語科における、図表を用いた説明や記録の文章を書くこととの関連。

事例 自己評価カードを活用してまとめ・表現する

生徒が自信を深め、探究活動により意欲的に取り組むために、まとめや表現の後の振り返りの場面において、生徒が自分のよい点や成長などを実感し、自己の変容に気付くことができる自己評価カード等を活用することが考えられます。

【実践例 自己の変容を振り返る自己評価カード】

...よくできた ...できた ...もう少し努力が必要

課題	町の魅力を調べ、観光客に伝えよう
1	課題を明らかにして学習に取り組むことができた
2	目的を持って調べることができた
3	集めた情報を整理しながら分析した
4	友達と協力して学習を進めることができた
5	発表の方法をみんなで考えることができた
6	聴衆に魅力を十分伝えることができた
振り返り	<p>【自分の言葉で～自分の変化、次の学習に向けて～】 はじめは、自分の地域にはあまり興味はなかったが、調べていくうちにたくさんのがかかってきて、最後には町が好きになってきた。総合の調べ学習の進め方がわかかってきてうれしい。調べてきたことをうまく整理できなかったので次の学習では工夫したい。 【先生から一言】 自分の町に対する気付きや思いの変化がよく分かった発表でした。見過ごしていることに再度目を向けること...</p>

【ポイント】

単元全体を振り返る工夫

- ・探究的な学習の過程を振り返り、文章化することにより、自分の変容を実感できるようにする。その際、単元の「はじめ」と「終末」の変化を表現するようにする。

資料の効果的な活用

- ・単元全体の学習活動の足跡が分かる資料（ポートフォリオ）などを活用して、学習の過程において多くの知識や学び方を獲得したこと、単元の導入と終末における自己の変容などに気付くようにする。

教科等関連

- ・各教科等においても、自己評価カードなどに言語化することで学習活動を振り返ることが考えられる。

事例 プレゼンテーションでまとめ・表現する

生徒が情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を明らかにしたり、伝えたりするため、プレゼンテーションでまとめさせることが考えられます。その際、それぞれの方法の意義、目的、対象などに応じて、内容、表現方法、情報量、構成などを工夫させる必要があります。

【実践例 パソコンとプロジェクター投影によるプレゼンテーション】

【主張点の明確化】

身近な問題である「ゴミ問題」は国際的な課題でもあり、すべての人たちが協力して解決していかなければならない。

【構成】

課題設定の理由

市役所の人の話、ゴミ処理場の見学、ゴミ調べによる、ゴミ問題、環境問題について追究することとした。

目的

北海道や日本、世界のゴミ問題の現状を調べ、具体的な解決策を明らかにして取り組む。
ポスターや Web ページなど様々な方法で発信する。

発表時間に応じて画面を精選する

ゴミ問題について



キーワードを強調したり、印象的な見出しを付けたりする

色はたくさん使わずに

文章は端的に表現する

【ポイント】

主張点の明確化

- 整理・分析した資料から自分の考えを明確にし、伝えたい内容や主張点を明らかにする。

構成の工夫

- テーマ設定の理由、追究方法、収集した情報、結果、主張など探究の過程や自分の考えを分かりやすく伝えることができるよう順序性や論理性を大切にす。

画像の工夫

- 相手意識を大切にし、複雑にならないよう最も伝えたい言葉や画像を精選し、色使い、見出しなどを工夫する。

教科等関連

- 各教科等でも学習活動の成果をまとめる方法として活用することが考えられる。

事例 新聞でまとめ・表現する

生徒が情報を再構成し、自分自身の考えを伝えるためには、新聞でまとめることが考えられます。その際、目的、対象などに応じて、内容、表現方法、情報量、構成などを工夫する必要があります。

【実践例 新聞によるまとめ】

優先順位		トップ記事	題字
自分の考え	コラム	優先順位	優先順位

表現上の工夫

- 記事の量、見出しの大きさは、紙面の下部ほど少なく、小さくなる。
- 見出しは、読み手を引きつけるため、比喻、体言止め、倒置法、語りかけなどを用いる。
- 資料で調べた難しい言葉や読みにくい漢字は分かりやすく表す。

【ポイント】

テーマの明確化

- 単元の課題を確認したり、これまでの活動を振り返ったりして、主張点を明確にする。

記事の優先順位の決定

- 主張点が分かりやすく伝わるよう記事の優先順位や割り付け、見出し、分量等の見出しを工夫する。

自分の考えの明確化

- 自分の意見を文章化することにより、自らの考えを一層明確にする。

教科等関連

- 各教科等においても、新聞などに言語化することで学習活動を振り返り、再構成・再編集することが考えられる。

事例 レポートでまとめ・表現する

情報を再構成し、自分自身の考えをまとめる方法としてレポートが考えられます。その際、要素や内容を生徒自身に取捨選択させるなどの吟味をさせましょう。

【実践例 レポートによるまとめ】

テーマ
心をつなぐ道 花園グリーンベルトの課題

1 動機
グリーンベルトに草花を植える人もいればゴミを捨てる人もいる。町の人たちはグリーンベルトについてどのように感じているのが疑問をもった。

2 目的
グリーンベルトに対する町の人たちの意識を明らかにし、住んでいる場所によって感じ方に違いがあるかどうかを調べる。

3 方法
アンケート調査（グリーンベルト沿いに住んでいる人 200メートルくらい離れた所に住んでいる人 他の地域から通勤している人）を行い、それぞれ集計し比較・分析する。

4 結果
グリーンベルトのよい点グリーンベルトの悪い点

表現上の工夫

事実や意見、引用を明確に区別して表現する。

- ・事実...調べて分かったこと、間違いのないこと
(例)「 $\frac{1}{10}$ 」の割合は全体の60%である」
- ・意見...思ったことや感じたこと、推測したこと
(例)「...と考えられる」「...だろう」
- ・引用...引用した文章は出典を明記する
(例)『 $\frac{1}{10}$ 』 書店・2009

図や表、写真、グラフなどを効果的に活用し、分かりやすく表記する。

【ポイント】

目的や読み手に応じた工夫

- ・「特定の人に提出する」「多くの人たちに発信する」「自分自身の記録とする」など目的や読み手に応じて形式、内容を工夫する。

探究的な学習の過程の明確化

- ・研究の動機、目的、方法、結果、考察などについてまとめ、探究的な学習の過程や結果が明らかになるよう工夫する。

レポートの主な要素と内容、主な要素各項の主な内容

主な要素	各項の主な内容
テーマ	より具体的に表記
動機	テーマ設定の理由、きっかけ
方法	いつ、どこで、どのような方法で情報を収集、分析したか
結果	調査・分析により明らかになった客観的事実
考察	・事実から読み取れること ・事実に対する意見・感想 ・今後の課題や残された疑問

事例 パンフレットでまとめ・表現する

情報を再構成し、自分自身の考えをまとめるには、パンフレットも一つの方法です。伝えたい内容に見出しを付けたり、レイアウトを工夫したりするなど、提案する相手を意識して表現方法を考えることが大切です。

【実践例 パンフレットによるまとめ】

伝えたい内容に「見出し」をつけてカードで整理する

- ・伝えたい内容を「見出し」をつけてカードに書き出す
- ・カードには1枚に1項目を書く

「見出し」を並べてパンフレットに載せる順序を決める

- ・どのような順番に載せれば、読む相手の説得力があるかを考える
- ・キャッチコピーを考える
(例)数字での主張、五感での主張、色で主張
擬音語の活用、擬人化など

文章と図や表、写真とのバランスを考える

- ・文章に合わせて入れたい図や表、写真などを決める
- ・優先順位や分量等に配慮してレイアウトを考える
- ・パンフレットの形式を考える
(1枚裏表印刷、観音開き、8ページの冊子など)

レイアウトに従って文章や図表を貼り付けまとめる

- ・見出しは大きく目立たせる
- ・文章は短い文で分かりやすく、少なく
- ・図や写真、文章の量を考えて書く
(基本的には文章30%、図、表、写真70%が目安)

身の回りのパンフレットを参考にして、よい点をまねてみましょう！

【ポイント】

主張点の明確化

- ・整理・分析した資料から自分の考えを明確にし、伝えたい内容などをカードや付せんなどを活用して明らかにする。

対象や目的の明確化

- ・「観光客に町のよさをPRする」「地域住民に働きかける」など対象や目的を明確にし、それに応じた内容や表現を工夫する。

表現の工夫

- ・相手意識を大切にし、複雑にならないよう、最も伝えたい言葉や画像を精選し、色使いや見出しなどを工夫する。

教科等関連

- ・美術科における、目的を考えデザインなどに表現する学習の関連。

事例 ポスターでまとめ・表現する

調査した内容や自分の思いを相手に表現する力を伸ばすには、ポスターセッションが考えられます。ポスターでまとめるときには、主張点や構成等を工夫させることが大切です。

【実践例 ポスターによるまとめ】

1 主張点を明確にする

何を誰に伝えたいのか
どのようなアプローチで伝えたいのか

2 構成を考える

2～3枚でまとめるために内容を焦点化する
大タイトルを決める
内容にあった小見出しを付ける
紙面のレイアウトを決める

3 表現を工夫する

見出し、タイトル
・相手の心に訴える言葉
説明の文章
・簡潔で分かりやすい文章
グラフ、表
・分かりやすい大きさ
・読み取るポイントを目立たせる工夫
文字の大きさ
・少しはなれていても読みやすい大きさ
・美しい文字で誤字脱字に気を付ける
色づかい
・強調する部分に目立つ色を使う
・色はたくさん使いすぎないように配慮する
写真、イラスト
・多すぎないように配慮する

【ポイント】

主張点の明確化

- ・整理・分析した資料から自分の考えを明確にし、伝えたい内容や対象などを明らかにする。調べたことを丸写しにしたまとめにならないよう注意する。

構成の工夫

- ・掲載する内容を精選し、それぞれの内容に適した小見出しや情報などを工夫する。

表現の工夫

- ・相手意識を大切にし、複雑にならないよう最も伝えたい言葉や画像を精選し、色使い、見出しなどを工夫する。

教科等関連

- ・美術科における、目的を考えデザインなどに表現する学習との関連。

事例 パネルディスカッションでまとめ・表現する

聞き手が新たな知識を獲得したり、思考を深めたりするためには、聞き手の前で発信者が決められたテーマについて異なる立場で議論する「パネルディスカッション」などの方法を活用することが考えられます。

【実践例 パネルディスカッションの進行方法】

- 1 共通の課題の確認 (司会者)
 - ・どんな課題で追究してきたのか
- 2 各パネラーによる提案 (パネラー)
 - ・できるだけ異なる視点や立場で
 - ・具体的な資料を提示しながら
- 3 聴衆の質問、意見 (聴衆)
 - ・よく分からなかったことや疑問点への質問
 - ・提案に対する自分の考えの発表(例)「～と思うのですが、どう思いますか」
 - ・反対意見や情報の提供など
- 4 パネラーの意見 (パネラー)
 - ・聴衆の質問や意見について自分の考えを分かりやすく話す(* 3・4を繰り返し、意見を深めていく)
- 5 司会者のまとめ (司会者)
 - ・話し合いから生まれた新しい考え方や意見をまとめる
 - ・質問や意見から新たな課題をもつ
- 6 最後に各パネラーが言い残したことやまとめたこと、意見を発表する



【ポイント】

協調的な発言

- ・互いの意見のよいところを吸収して最も優れた解決策を考えるように会を運営する。

根拠のある発言

- ・事実の裏付けのある意見を発表するために、事前に話す内容を想定し、根拠になる事実データを収集する。

簡潔で分かりやすい発言

- ・発言できる時間が限られているので、自分が最も伝えたいことを端的に発言する。

教科等関連

- ・国語科における、事実と意見との関係に注意して話したり聞き取ったりすることとの関連。

事例 シンポジウムでまとめ・表現する

聞き手が新たな知識を獲得したり、思考を深めたりするためには、聞き手の前で発信者が決められたテーマについて提案し、その後、聴衆(参加者)が質問や意見を出し合い新しい考え方を発見する「シンポジウム」などの方法を活用することが効果的です。

【実践例 シンポジウムの進行方法】

- 1 司会がテーマについて説明する。(約1分)
- 2 各パネラーが自分の意見を発表する。(約1～3分)
- 3 司会が対立している点をまとめ、それについてパネラー同士が議論する。(約10分)
(* 反対意見に対しては建設的な意見で反論する)
- 4 議論が一段落ついたら、司会は会場から質問を受ける。(約5分)
(* 質問に回答するパネラーを決める)
- 5 最後に各パネラーが言い残したことやまとめたこと、意見を発表する。(約1分ずつ)

【ポイント】

全員の積極的な参加

- ・司会者は、疑問を投げかけるなど発言が活発になるようにする。パネラーは、参加者全員で考えていきたい内容を提案する。
- ・聴衆は聞くだけに終わらず積極的に質問や意見を言う。

簡潔で分かりやすい発言

- ・発言できる時間が限られているので、自分が最も伝えたいことを端的に発言する。

教科等関連

- ・国語科における、話の論理的な構成や展開に注意して聞き、自分の考えと比較することとの関連。

[コラム] 言語活動を充実させるために・・・

学習活動において、国語科との関連を意識して実践していくと、言語活動がより充実していきます。

事例 国語科の作文に生かす

【実践例 国語の作文に生かす場合】

総合的な学習の時間で取り組んできたことを基にフォーラムを開催し、その実現に向けて準備する。

フォーラムで伝えたいことを考える。

伝えたいことを基に集まった情報を整理する。

「はじめ」「なか」「終わり」で文章の構成を考える。

文章にまとめ、構成する。

フォーラムを開催し、互いに意見文を聞き合う。

【ポイント】

国語への教材化
国語科 第1学年
「B 書くこと」の指導事項

- ・集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段階の役割を考えて文章を書くこと。
- ・上記との関連を意識して、総合的な学習の時間の発表などにおいて、国語科で身に付けた話す力を発揮する場面と考えることができる。

事例 国語科で扱った教材や学習活動を想起する

【実践例 既習事項を生かす】

それまでに学習した国語科の指導事項や言語活動での成果を活用する。

<総合的な学習の時間>
第3学年の最初の単元「環境プロジェクト」

発表のめあて
・根拠を明らかにして論理的に話す

主な学習活動
各グループが学年の全体に対して調査の報告をする
報告を聞いた人は自分の意見や感想を発表する
司会者を立て、全体の意見を整理して今後の方向性を明らかにする

【ポイント】

国語への教材化
国語科 第2学年
「話すこと」の指導事項

- ・異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。
- ・目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。
- ・上記との関連を意識して、総合的な学習の時間の発表などにおいて、国語科で身に付けた話す力を発揮する場面と考えることができる。

総合的な学習の時間 課題解決スパイラル図

総合的な学習の時間を探究的な学習とするためには、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程が繰り返され、スパイラルに高まっていくことが重要である。しかし、この学習過程はいつも順序よく繰り返されるわけではなく、前後したり、一体化したりして現れる。P 20 ~ 45 で示したそれぞれの学習活動は、生徒が真剣に課題を解決しようとする中に生まれるものであり、例えば下図のような一連の学習活動のつながりを大切にしたい。個別の学習活動を羅列すればよいというわけではないことに十分配慮したい。



